

翼

つばき



空港圏の明日へ — 前原国土交通大臣発言の波紋 —

町長 佐藤 晴彦

10月12日、前原国土交通大臣の「成田空港は国際線の基幹空港、羽田空港は国内線の基幹空港とするこれまでの内閣分限政策を基本的に撤廃し、羽田空港を24時間国際ハブ（拠点）空港として整備して行く」という発言がテレビ・新聞で大きく報道され、2本の空路の直下で騒音防止特別地区を有するこの横芝光町の長として、あまりにも唐突な発言に大変な驚きと憤りを感じたところであります。

14日には森田健作千葉県知事が前原大臣と会い、「心配は無くなった」との連絡を頂いたところではあります。騒音問題を抱える成田空港周辺市町の首長は、その前日の夜、成田市役所に集まり、我々も直接大臣と面会し、真意を聞かせて頂くとの意見で一致し、急遽15日の夕方6時から面会時間を頂き、総勢9人で国土交通省へ出向き大臣へ「内閣分限政策を今後も堅持し、首都圏空港の機能拡充の申し入れを行い対談させていただきますました。」

5分間と言われた面会時間も終わってみれば40分間の意見交換でしたが、はじめに成田空港は多くの血と汗を流し、そして多くの関係者の努力と協力のもと、大変な思いの中で開港し、来年3月の発着回数22万回への拡大、更には30万回へ向けた検討を始めるなど、着実に空港の機能強化

を図っている最中の突然の大臣発言に地元自治体は大変困惑していることを伝えました。そして、国際は成田、国内は羽田を基本とする内閣分限政策を今後も堅持すべきことや、「成田・羽田の両空港を一体的に捉え合理的すみわけする」と千葉県知事との対談で発言した大臣の真意は何であるのかなどの質問をさせていただきました。

それに対して、大臣からは「決して成田を地盤沈下させることは無い」ことを前提に、今日本が抱えている空港問題として、1点目に今後更に航空需要が伸び、2030年までには成田と羽田で94万回の発着枠が必要になると予想されていて、たとえ成田空港の30万回が実現して、羽田空港の第4滑走路を供用してからの40・7万回を加えてもまかないきれないことや福岡空港や千歳空港などの地方空港から、乗換えが楽で利用料の安価な韓国の仁川空港を利用する日本人が年間6万人に上ってしまったこと。2点目として、民間機の利用する空港が99あり、その内、経営赤字を出しているのが成田空港と羽田空港を含む4空港だけで、その利益を他の空港の赤字補填に振り分

けたり、新たな空港建設に使われているので、結果的に利用料が高額になってしまっていること。3点目として、99の空港のほとんどに日本航空の便を利用できるようにしてある為に、日本航空の経営環境が著しく低下してしまっている。これらを総合的に解決していかねければならないので「これからは成田空港の発展に努力してまいります」と述べられ、内閣分限は維持していただけるものと確信し、大臣室を後にしました。今後、当町にとって大きな影響を及ぼす問題であり、当町の更なる発展には成田空港の発展が不可欠であることは言うまでもありませんので、国（国土交通省）・千葉県・空港会社と空港圏自治体の4者が情報を共有し、その情報を出来るだけ町民の皆様へ開示しながら成田空港と共に発展する横芝光町の構築に努力してまいりたいと考えております。

